

年 組 名前：

問1

見出しの①に入る漢字2文字は何ですか。

『県内でMリーグ 控えイレブン 』

問2

「M(メモリー)リーグ大会」とは、どのような

大会ですか。

.....

.....

.....

問3

選手たちにとって、集大成の大会でした。

どんな気持ちでプレーしたと思いますか。

.....

.....

.....

.....

.....



最後の80分間を満喫した選手たち—日本航空高グラウンド

県内でMリーグ 控えイレブン

①

最後の80分間は笑顔で。山梨県内の高校サッカーで主力チーム入りがかなわなかった3年生を主体とした大会「M(メモリー)リーグ」が23日、県内各地で行われ、高校生イレブンがサッカー生活に一区切りをつけた。Mリーグは例年、選手権県大会前に終了するが、今年は8〜9月のまん延防止等重点措置で、一時中断。11月中旬に再開し、23日は順位決定戦が行われ、県内の3年生にとって集大成の日となった。日本航空高グラウンドで行

サッカー生活に 高3生 一区切り

われた、日大明誠—帝京三の決勝戦。ピッチ外ではレギュラーだったメンバーが応援し、ピッチ上では激しくボールを追った。試合終了のホイッスルに、2-0で勝利した日大明誠イレブンはガッツポーズ。敗れた帝京三も笑顔で抱き合い、たたえ合った。選手権出場を目標に進学した選手たち。果たせずとも、「最後なのでやり切ろうと思った」。日大明誠のFW守屋拳士朗選手(リヴィエール出身)は背番号10をつけ、攻撃を引っ張った。夏の全国高校

総体(インターハイ)で1回戦のピッチに立った帝京三のMF山本圭吾選手は、選手権県大会に出場する機会はない。小学3年からUスポーツでサッカーボールを追い、この日が競技生活最後。「特別な感情もあったけど、みんなと最後まで楽しくプレーができた」と笑った。Mリーグは2006年にスタート。発起人の一人で、日本航空の仲田和正監督は「コロナ禍の難しい時だが、各チームのニーズがあった。現場スタッフ、選手、保護者。それぞれ思いが詰まった大会になった」と語った。

〈小野田洋平〉

(2021年11月24日付 山梨日日新聞 20面)